



超音波洗浄機

常盤商事(福井)

部品安価に加工、交換

韓国メーカーと共同で

各種機械製造の常盤商事(本社福井市運動公園4丁目、藤原義典社長)は、国内外各社製の超音波洗浄機の消耗品を安価で設計製造し、取り換え工事を行うサービスを始めた。韓国メーカーとの共同事業で、既に4月までの受注を確保。自社製、他社製を問わず、利用者の部品交換需要に応えることで浸透を図り、超音波洗浄機事業の年間売上高を、現在の2倍の3億円へ引き上げを目指す。(坂下享)

他社製も対応、浸透図る

超音波洗浄機は、水などの溶液を超音波で振動させ、中に浸した物に付いた汚れを落とす装置で、工場などで使われる。振動部分は消耗品のため、定期的な交換が必要だが、型式が古くなってしまうと、メーカーのものがないとなってしまう。特注品は、高額のコストが必要となる場合がある。

常盤商事は、この点に着目し、韓国メーカー「未来超音波技術」と共同で、新事業を考案した。常盤商事が交換部の基本設計を行い、国産部品を調達した上で未来超音波技

超音波洗浄機の実演をする常盤商事の社員。新事業では、槽の中にある振動部分と、台の上にある振動信号を送る装置を安価で取り換える。福井市運動公園4丁目

術へ送付。加工費が日本の3分の1、4分の1で済む韓国で組み立てて完成品を輸入する形を取る。

これにより、他社に依頼するのと比較して半額程度の価格を実現した。振動部分と同時に、振動信号を発信する装置も取り換える。最短納期は2週間。半導体工場などで使

われる高性能な洗浄機以外は、ほぼ全てに対応できるといふ。

常盤商事の超音波洗浄機

は、これまで繊維や眼鏡といった地場産業が顧客の主力だったが、近年は医療や食品など幅広い分野で活用されている。部品交換から新規顧客を増やし、製品の信頼度を高めた上で、機械の全面交換など将来の需要を取り込みたい考え。

藤原社長は「他社製品の部品交換は、通常のメーカーはやりたがらない。その隙間を狙って事業を拡大したい」と話している。